

都小音研

令和5年7月7日第65巻444号

発行所
東京都小学校音楽教育研究会

事務所
東京都三鷹市北野3-1-5
東三鷹学園三鷹市立北野小学校

人と人をつなぐ 音楽の力を信じて

東京都小学校音楽教育研究会
会長 峯岸敦子
(世田谷区立八幡小学校長)

新型コロナウイルス感染症が5類になり、街中にマスクをしない人の姿が徐々に増えてきました。各学校では全校が一体となって開催した運動会や人数制限をしない学校公開、黙食ではなく食事のマナーを重視した給食など、学校生活が以前の形に戻ってきたように思います。が、元に戻すということではなく、改めて考えて提案することが私たちの中では当たり前となってきたということなのだと思います。先生方におかれましては新年度のスタートからやっと、ひと段落したところではないでしょうか。昨年度に引き続き東京都小学校音楽教育研究会会長を務めさせていただきます、世田谷区立八幡小学校長の峯岸敦子です。コロナ禍では表現活動が制限され、先生方の学びを止めないという強い意志と子供たちに楽しい音楽の授業をと願う創意工夫により、一人1台端末の活用が進みました。遠く離れたところにいる人とインターネットでつながって演奏動画を聴き合ったり、合奏したりすることもできました。理事会や総会で各地区の情報交換をする中で、先生方が新しいことに果敢に挑戦し、努力し続けていることを実感し頭の下がる思いです。



さて、今年特に感じるのは、感染症による分断が深刻な影を落としているのではないかと、ということです。低学年の児童は幼少期に感染症予防のためマスクを着けた大人と過ごすことが多かったためか、表情を読むということに課題があるように思うことがよくあります。近くを通る子供に名前でも呼びかけても、自分事としてすぐに反応しない場合もあります。三歳児検診でじっと座ってられない子供の数が倍増しているという話も聞きました。保護者からも、思うように交流ができなかったためこの3年間の連帯が減ってしまった、という声が上がっています。

このような中、都小音研ではゾーン研究によって先端研究を進めてきました。昨年度の山の手Dゾーンが小学校体育館の4会場に分かれて事前録画したものによる研究授業・研究協議を行い、午後からはオンライン配信による研究発表・講演を行ったということは、新たな研究発表の形として記憶に残っていることと思います。「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」の研究主題の下、続けてきた研究の歩みを改めて振り返り、これからは「何のために音楽を学ぶのか」という問いを教師自身と子供たちが一緒に考えていかなければならないところに立っているのを感じます。

今年度は西東京市の1会場に集合して、西武ゾーン大会が行われます。コロナ禍の2年間は研究期間となったこの大会では、事前録画による授業研究や研究演奏を行います。コンサートライブの一体感にはもう一息のところですが、1会場で開催できることは感慨深いことだと思います。早く会場を提供してくださった西東京市の学校法人日本文華学園 文華女子高等学校様のご協力、練馬区・小平市・清瀬市・東久留米市・西東京市の各地区の音楽部担当校長先生はじめ、音楽主任の先生方の研究への熱き想いを強く感じ、大会主題「つかもう 広げよう 生かそう 私たちの音楽！」の下に集結しましょう。感染症によって分断されかかった人と人とのつながりを音楽の力が再び強く結び付けてくれることを信じています。

東京都小学校音楽教育の充実・発展と子供たちの未来のために、共に力を合わせ全力で取り組んでまいります。

日時：4月20日(木) 場所：世田谷区立八幡小学校 ☆コロナ対応が緩和され、枠を広げての参集型で開催されました。

《第一部：総会・議事・感謝状贈呈》

- 「音楽の聴こえる嬉しい日常がようやく戻ってきました」という岡 千恵 副会長の開会のことばに続き、峯岸敦子 会長はコロナ禍での3年間で「音楽専科は、社会状況に追い込まれるのではなく、課題にチャレンジし、子供たちと共に明るい未来をつくるのだ」という意気込みを実践しようとした日々でした」と振り返られました。
- 議事についてはすべて承認されました。
- 長年にわたり都小音研にお力を尽くされた叶こみち先生・桑畑多恵先生へ感謝状が授与されました。
- 第一部は、永井美奈子 副会長が、組織で研究を進めることの大切さを唱えられて締めくくられました。

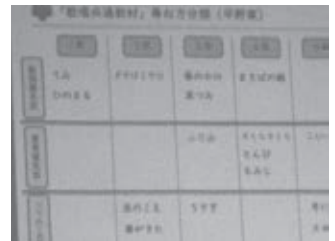
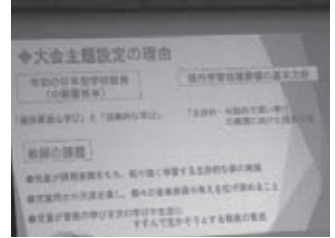


《第二部：各種研究会紹介・西武ゾーン大会について・講演会》

- 令和5年度の各種研究会の代表者が各研究会の活動内容、成果などを紹介しました。



- 今年度の西武ゾーンの研究についてのプレゼンテーション発表、その後、平野次郎先生から授業実践の動画を交えながらご講演いただきました。



《第三部：理事会》

- 今年度の都小音研の役員の紹介を行い、各部からの連絡事項がありました。

【講演「児童の思考に寄り添う学習過程の構想～筑波大学附属小学校の実践より～】

講師：筑波大学附属小学校 教諭 平野次郎 先生 ☆ほんの一部ですが平野先生のご講演内容をご紹介します。

○子供自身が音楽をどうしたいと思っているのか、という視点で子供を見る

一人の女の子がマイクを貸してほしいというので渡したら、マイクで歌いながらみんなの周りを歩き始めた。歌い終わると同時に元の位置に戻った。その子が歌う前になにを思っているかを教師は予想する。子供たちのいろいろな考えを、どう引き出し、どう深め、どう広げるかは教師の力量が試される場所である。4～7月は子供の「挑戦しよう」「やってみよう」という気持ちを大事にしたいと思う。子供たちが考えること ①試してみたい・やってみたい ②表現してみたい ③気付きたい ④思い描きたいは、学習指導要領では「思いや意図をもつ」ということであるが、子供はそれ以上に幅広く考えている。自分なりに考えさせるために、教師は、発問を「～してみようか」と提案型にしたり、子供の発言や挑戦を価値付けして自身のことを教えてあげたり、みんなで共有したりすると、それだけで子供の思考や授業は大きく変わる。子供自身の言葉で語らせてみると、こたえは自分の音や音楽の中にある。「みんな違ってみんないい」ののだが、大半の子はみんなと同じだと安心、という気持ちもある。だからこそ子供たちにもっと委ねてよいと思う。

○音楽科授業の「好き」の実態

平成24年の学習指導の調査結果では、体育科や図画工作科・家庭科の肯定的な意見が70～85%だったのに比べ、音楽科は68.1%だった。「個別最適な学びと協働的な学び」の部分が足りていないのではないか、また、他教科は「自分の場所」「自分の素材」が目前にあるが、音楽科は目に見えないものを扱うことが多く、そこにも難しさがあるのではないと思われる。学習指導要領では「音楽活動の楽しさを体験することを通して」をととても大切に、これは西武ゾーンの研究の根底にもあったと思う。歌唱では、「自らの声で歌うことが大事」ということを念頭に、音楽づくりでは「子供が創造性を発揮しているか」をポイントに授業をし、教師自らがどうだったかを自身に問いかけるようにしている。

○歌唱の実践例、音楽づくりの実践例

- ・1年「うみ」では歌詞をもとに「一番気持ちが込められているところはどこだろう？」という発問から子供の感情やイメージを広げていく。4年「エーデルワイス」では、曲の特徴をもとに子供の考えや言葉を引き出し、表現へとつなげる。子供の発言は板書などしてできるだけ多く生かす。
- ・「ソ」だけを使う音楽づくりでは、途中で偶然「ラ」が入っても、音楽の世界がどう変わったかを感じることができる。また「ソラシドレ」を使った旋律遊びでは、友達とのつながりを考えてつくっている。こうした遊びの中から生まれる発想を大事にしたい。

○ワークシート

観察だけで思考を把握するのは信頼性と妥当性に欠けるので記述は必要。書くタイミングは授業の終わりや、途中で考え方が変わったら書く子供もいる。児童の実態や必要に応じ、指導のねらいに即して記録させる。

○まとめ

教師が子供の思考に注目し、子供にとって必要感のある「こうしてみたい」という思いを大事にしながら授業改善を進めていくのは大変嬉しいことです。学習指導要領には授業づくりのためのよいヒントやポイントがたくさんあります。今後も各地区でお世話になることと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

今年度の研究について

研究部長 半野田 恵 (立川市立第三小学校)

都小音研の研究主題『つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを』は、学習指導要領改訂に伴い、令和元年度の全日音研総合大会小学校部会研究大会より設定しました。

昨年度、山の手Dゾーン(世田谷区・渋谷区・町田市)では、大会主題『見つけよう 広げよう 生かそう 私たちの音楽』のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、3つの視点を設定しました。この研究の成果を受け、本年度、西武ゾーン(練馬区・小平市・清瀬市・東久留米市・西東京市)では、『つかもう 広げよう 生かそう 私たちの音楽!』の大会主題のもと、令和6年1月26日の大会に向けてゾーン研究に取り組んでいます。

研究のキーワードを「つかむ」「広げる」「生かす」と設定し、児童が自分にとっての音楽の価値を見いだし、「私たちの音楽!」として充実感や達成感をもって音楽表現を楽しんだり、音楽を味わって聴いたりする姿を目指しています。

大会当日は、日本文華学園 文華女子高等学校(西東京市)が会場になります。

始めに研究演奏視聴、その後は、午前の授業Ⅰ、午後の授業Ⅱと授業研究が2本立てになっております。研究発表と講評・講演は一つの会場に参集します。

私たち教師が、自身の課題をつかみ、授業力を磨いていくことが、児童の学びの広がりにつながっていくと考えます。ゾーン大会の研究が、東京都の先生方の授業づくりの一助となり、生かされていくことを願っています。

西武ゾーン大会に向けて

大会推進委員長 荻野 靖子 (練馬区立中村西小学校)

西武ゾーンは、練馬区・小平市・清瀬市・東久留米市・西東京市の5つの区市で構成されています。互いに距離が離れていますが、関係の先生方が毎回の研究推進委員会に参集し、共通理解を深めながら協議を進めることができています。

まずは、研究を進めるにあたり、各地区の児童の実態や指導上の課題を把握するために実態調査を行いました。そこで明らかになった教師側の課題や音楽科で求められている、「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学びの実現」の授業改善の視点から、「つかむ」「広げる」「生かす」の3つのキーワードを導き出し、大会主題を「つかもう 広げよう 生かそう 私たちの音楽!」と設定しました。研究主題や目指す児童像に迫るために、児童の教材の捉え方や思考の流れを十分に想定した学習過程の構想を軸とし、視点と手だてを考え検証授業を重ねています。今年度は、西東京市にある日本文華学園 文華女子高等学校をお借りし、4年振りに一会場で開催できることになりました。当日は、6本の研究授業と2本の研究演奏を動画により発表いたします。

昨年度の山の手Dゾーンはじめ、これまでの都小音研大会の先行研究からご示唆をいただき、各地区の音楽科の授業改善の一助になるよう、5地区で一致団結して臨む所存です。皆様、ぜひご参会くださいますよう、よろしく願いいたします。

「第60回記念 児童作曲コンクール」について 事業部

今年度で記念すべき第60回を迎える児童作曲コンクールは、本研究会の歴史ある事業となっております。応募要項(6月理事会以降に各地区理事より配布)をご覧ください。音楽で思いや願いを表現する児童の作品が、たくさん生まれることを楽しみにしております。

(A) 課題詩の部 ※ことばのリズムやアクセントを生かして旋律をつくるようにご助言ください。

「はるの あかちゃん」 大竹 典子 詩

「きこえてくるよ」 白石 はるみ 詩

(B) 自由作品の部(自由旋律) ・自由ア 旋律のみのも(自作の歌詞は可)

・自由イ 伴奏等がついたもの

◇作品受付期間 令和5年9月7日(木)～9月14日(木)〈必着〉

◇授賞式・入選作品演奏発表会 令和6年2月9日(金) 会場:カスケードホール(千代田区)

◇作品応募に関する問合せ・応募先

【第60回記念児童作曲コンクール事務局】
新宿区立牛込仲之小学校(脇田 秀男)
〒162-0064 新宿区市谷仲之町4-33
TEL03-3358-3762 FAX03-3358-3755

都小音研ホームページ(都小音研でも検索可)
<https://tosyouonken.com/>



本コンクールの応募要項・五線紙などをプリントアウトすることもできます。どうぞご活用ください。

都小音研運営機構の変更について

退任役員 及び 新規役員の紹介

★退任役員 長きにわたり都小音研を支えていただきました。ありがとうございました。

前副会長：坂倉理恵（前八王子市立鹿島小学校長）

同：小池義和（前葛飾区立南奥戸小学校長）

同：叶こみち（前北区立八幡小学校主幹教諭）

前会計副部長：桑畑多恵（前三鷹市立高山小学校主任教諭）

★新規役員 今年度は新たに以下の役員の皆様をお迎え、さらに、新しくICT部も立ち上がりました。また、各部に合わせて16名の部員も加わり、都小音研のいっそうの充実を目指します。どうぞよろしく願いいたします。

新規役員			
役職	氏名	職	校名
副会長	永井美奈子	長	練馬・下石神井
副理事長	村田悦子	長	千代田・和泉
	上田義孝	長	調布・八雲台
	宮内敬子	長	中野・谷戸
庶務部副部長	下岡紀子	任	大田・萩中
会計部副部長	末永亜由	任	小平・第十二
	大賀美枝子	任	世田谷・三宿
研究部副部長	佐々木 睦	幹	世田谷・希望丘
ICT部長	酒井哲志	幹	品川・大原
ICT相談役	荻野 仁	副	新宿・戸塚第一

♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈3月理事会〉 3月9日(木) 於：八幡小

議長：浅井 元（新宿・落合第三小）

○会長あいさつ

○議 事

- 都小音研会則の改訂について
- 年度末反省について
- ICT部の発足に向けて
- 令和5年度総会と理事会について
- 令和5年度事業計画について
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業 *調査 *広報
- 情報交換

〈4月理事会〉 4月20日(木) 於：八幡小

議長：後藤 朋子（日野・平山小）

○会長あいさつ

○議 事（総会）

- 令和4年度 会務・決算・会計監査報告
- 都小音研会則の改訂について
- 令和5年度事業計画と予算案
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業 *調査 *広報 *ICT

〈6月理事会〉 6月15日(木) 於：八幡小

議長：上村 朋子（小平・第四小）

○会長あいさつ

○議 事

- 7月の行事予定について
- 令和5年度研究大会について
- 学ぶ理事会について
- 第60回児童作曲コンクールについて
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業 *調査 *広報 *ICT
- 情報交換

各種研代表者会議 6月15日

各種研究会の代表者から各研究会の詳細報告がありました。

令和5年度の会報発行計画（3回の発行予定）

- ・ 7月号（第65巻444号）令和5年7月7日発行
- ・ 12月号（第66巻445号）令和5年12月14日発行
- ・ 3月号（第66巻446号）令和6年3月7日発行

編集後記

子供たちが音楽の授業でもマスクを少しずつ外し始めました。久しぶりに見るその笑顔、そしてフィルターのかからない音楽の嬉しさを改めて感じます。まだ油断はできませんが、引き続き健康に気をつけて、開放された音楽の彩りを子供と共に楽しんでまいりましょう。(A)

会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会長 峯岸敦子

編集：広報部

印刷：タイヨ一美術印刷株式会社